

授業科目	まちづくりマネジメント特講 Area Promotion Management			担当教員	大島 啓・佐野 香織		
展開方法	講義	単位数	2 単位	開講年次・時期	1・2 年／前期	必修・選択	選択
授 業 の ね ら い							
<p>テ ー マ：地域のまちづくり</p> <p>到達目標：地域の自然や住民の営みで築かれた産業・歴史・文化などの地域資源は、まちづくりに不可欠な要素である。この授業では、住み良い地域のまちづくりのあり方を、理論的考察や事例検討を通じて理解する。</p>							
観点	学生の授業における到達目標			評価手段・方法		評価比率	
関心・意欲 ・態度	地域の自然や産業、歴史や文化に関心を抱き、学修に意欲的に取り組むことができる。			授業態度・課題の取り組み		10%	
思考・判断	まちづくりに不可欠な地域の特性や問題点を見出す思考力を養うことができる。			レポート		30%	
技能・表現	まちづくり計画の策定と運営の基本的手法を身につけることができる。			レポート		30%	
知識・理解	地域のまちづくりに関する自然科学や人文・社会科学の専門知識を修得できる。			レポート		30%	
出 席						受験要件	
合 計						100%	
評価基準および評価手段・方法の補足説明							
評価は、レポート 90 点（2 名の教員各 45 点）、授業態度・課題の取り組み 10 点（総合的判断）とする。							
授 業 の 概 要							
<p>授業は 2 名の教員によるオムニバス方式で行う。</p> <p>大島：テーマ「地域再生とナラティブ・アプローチに基づくソーシャルワーク」 地域再生の方法論を検討した上で、ナラティブ・アプローチに基づくソーシャルワークの可能性を考察する。</p> <p>佐野：テーマ「ナラティブでひらく多文化共生のまちづくり」 日本の多文化共生推進に関する背景を概観した上で、多文化共生の意味を問い直しながら、異世代、関係人口、外国人住民等多様性の包摂をめざした「ともに生き暮らすことば」の検討とウェルビーイングなまちづくりを考察する。</p>							
教 科 書 ・ 参 考 書							
<p>教科書：授業に関連する図書を指定する。また、必要に応じて資料を配布する。</p> <p>参考書：授業で紹介する。</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
地域の現象や事実を客観的に分析し、普遍性と地域性を見出す研究能力を身に付けてほしい。そのためには、多くの学術論文を読むとともに積極的に現地調査を行う必要がある。							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	地域再生の方法論 (大島)	地域再生の失敗事例を検討することを通じて、地域再生のために必要な政策的措置について考える。	予習：地域再生の失敗事例 復習：官民連携の新しい戦略
2	ナラティブ・アプローチとは何か (大島)	ナラティブ・アプローチの視座や種類、疑問点、およびこの視座に基づくソーシャルワークの可能性について説明する。	予習：ナラティブ・アプローチの概念 復習：ナラティブソーシャルワークの構築
3	困難事例を支援する (大島)	事例検討を通じて、「無知の姿勢」や「問題の外在化」など、ナラティブ・アプローチの技法上の特徴を理解する。	予習：「無知の姿勢」や「問題の外在化」の概念 復習：従来の方法論との違い
4	地域の多問題家族を支援する (大島)	認知症患者や不登校児の物語を紡ぐことを通じて、地域社会における対等な支援の可能性を探る。	予習：多問題家族について 復習：従来の方法論との違い
5	当事者やグループで支えあう (大島)	問題の外在化、語り直し、分かち合いなどの技法を通じて、当事者と専門職との協働のあり方を探る。	予習：当事者の定義について 復習：従来の方法論との違い
6	コミュニティの物語を紡ぐ (大島)	地域支援を「物語」としてとらえ、「地域の物語」を、書き換え、守り、それに寄り添う方法論を問う。	予習：ナラティブ・アプローチのコミュニティへの適応 復習：地域福祉の実践例
7	ナラティブ・データを分析する (大島)	ナラティブ・データのテキストマイニングによる分析の実際を、基礎と応用の観点から検討する。	予習：テキストマイニングの手法 復習：エビデンスとしてのナラティブ
8	多文化共生を問い直す (佐野)	多文化共生とは何か、文化、多文化、共生の意味を問い直しながら、まちづくりのあり方を考える。	予習：多文化共生に関する事例 復習：まちづくり事例
9	国家、地方自治体と多文化共生社会の言語政策 (佐野)	近年の多文化共生を巡る法律、政策を整理・概観し、今後の言語政策を展望する。	予習：各省庁の関連情報整理 復習：言語政策の展開
10	ともに生き暮らすことば① 生活者とまち (佐野)	“移民”、まちの生活者が紡いだナラティブを通じて、地域におけることばを問い直す。	予習：Life, 社会、参加のナラティブの検討 復習：ふり返り
11	ともに生き暮らすことば② ワークプレイス (佐野)	外国人就労、技能実習生、高度外国人材等を巡る課題を概観した後、ワークプレイスにおけることばのあり方を探る。	予習：外国人就労関連の指定文献 復習：扱った事例の検討
12	ともに生き暮らすことば③ 子どもと学び (佐野)	「移動」を鍵概念として、外国にルーツを持つ子どもの地域におけることばと学びの方法論を探る。	予習：外国にルーツを持つ子どもに関する指定文献 復習：方法論の検討
13	ともに生き暮らすことば④ 伝統文化行事 (佐野)	「継承／ケイショウ」を鍵概念として、地域における伝統文化行事のあり方を考える。	予習：伝統文化行事の継承課題 復習：文化のケイショウの検討
14	ともに生き暮らすことば⑤ コミュニティ実践 (佐野)	ともに生き暮らすことば①～④の文脈から選び、実践事例を検討する。	予習：実践事例発表の準備 復習：ふり返り
15	まとめ (大島)	住み良い地域のまちづくりのあり方について、2名の教員の課題レポートを執筆する。	テキスト・資料・ノートを用いての復習